

国語科学習指導案

日時：平成三十年十一月十三日（火）第五校時
場所：北舎二階 三年B組教室
学級：三年B組（男子十七人 女子十五人）
授業者：夏目 忠洋

1 単元名「現代社会の『物語』を考える」

本教材「作られた『物語』を超えて」は「物語」というキーワードを軸に、ゴリラの事例から、人間の文化や社会全体の事例に発展させ、最後に筆者の主張をまとめた論説文である。この文章には、長年ゴリラの研究を続けてきた筆者が人間社会を考察し、言葉をもったがゆえの光と影に触れ、筆者独自の視点でものの見方・考え方が示されている。

本単元では、教材の特質を踏まえ、重点指導事項を「読むこと エ 考えの形成、共有」とした。また、自分の考えを形成するためには、そのことについての十分な理解が必要不可欠と考え、考えを形成する基盤として「読むこと ア 構造と内容の把握」を関連指導事項とした。

単元の終末の授業では「情報化社会や多文化社会の中で作られた『物語』を超えていくためにはどうするとよいか」をテーマとした意見文を書き、仲間と意見交流をする言語活動を位置付けた。互いの意見を聞き合うことを通して、自分と他者の意見の違いを捉え、再度自分の意見の妥当性や客観性を吟味して振り返ることができるようになりたい。

2 研究の主張点

(1) 研究内容1〈「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫〉

国語科では、生徒が主体的に学習に取り組むために、必然のある課題の設定と課題意識の持続が重要だと考えている。そこで、本単元では第一次に情報化社会や多文化社会の中で起きた時事的な問題を提示し、仲間との意見交流を通してなぜこのような問題が起きたのかという疑問を抱かせる。そしてこの疑問に対する意見をもつために、「作られた『物語』を超えて」から筆者のものの見方・考え方を深く読み取っていくと投げかける。このようにして、生徒が抱いた課題意識を基にして単元を貫く課題を設定する。また、単元を貫く言語活動として、テーマについて書いた意見文を基に交流する活動を設定した。第二次は、筆者の主張を表す語句や論理展開の仕方に注意しながら、筆者の主張を適切に読み取ることに重点を置いた「習得」の時間と捉える。そして第三次では、第二次で読み取った筆者の主張について納得や共感ができるか否かなどを、自分の知識や経験と照らし合わせながら意見文として書きまとめる「活用・探究」の時間と捉える。

(2) 研究内容2〈一人一人が課題解決できる手立ての工夫〉

①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

単元の第二次では、筆者の主張を適切に読み取る学習過程を通して、筆者の主張を表す語句や論理展開の仕方を吟味しながら読む力を付けたい。全体交流では、前時の学習内容と本時読み取った内容を板書に横並びにして位置付け、生徒が視覚的に言葉を関連付けながら思考を深めることができるようにする。

②学びの状況を掌握できる授業終末の工夫

授業の終末では、読み取ったことと仲間との交流を通して、広がったり深まったりした自分の考えを書きまとめる活動を位置付ける。その際に、ペアで交流させて書く内容を見通させるようにする。また、どのように考えをまとめるとよいか分かる型を示し、板書を基に書きまとめることができるようにする。また、書いたことを仲間と交流させる。その際に、自分にはなかった考え方や共感できた考え方を伝え合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりできるようになると考える。

＜単元を貫く課題＞情報化社会・多文化社会の中で作られた『物語』を超えていくためにはどうすればよいう。
 ＜単元を貫く言語活動＞山極さんの主張を踏まえ自分の意見をまとめ、仲間と交流する。

(見方・考え方: 自分の考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉え、その関係性を問い直して意味づけること)

【知識及び技能】

筆者独自の言葉の使い方や意味に気付かせ、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

筆者の主張を表す語句や論理の展開に着目して文章の内容を的確に理解することができる。(読むこととア)

文章に表れている筆者のものの見方・考え方を踏まえて、現代社会の問題に対する自分の意見をもつことができる。(読むこととエ)

【学びに向かう力、人間性等】

筆者の主張と事例の関わりについて知り、筆者の主張を踏まえ、自分の生き方や社会との関わりについて考えを広げたり深めたりすることができる。

第一次

第1時●【関心・意欲・態度】

現代社会における様々な問題を知ることを通して、問題が起きる要因に疑問をもつとともに、単元の見通しをもつことができる。

第二次 「構造と内容の把握」

第2時●【読むこと ア】

「作られた『物語』を超えて」を読み、序論・本論・結論の構成を捉え、文章全体の大きな内容と筆者の主張を理解することができる。

第3時●【読むこと ア】

本論①を読み、ゴリラのドラミングの意味や、誤った解釈をされた経緯を読み取ることができる。

第4時(本時)●【読むこと ア】

事例と主張とのつながりを読み取ることを通して、ゴリラの事例から人間社会の問題に発展させ、主張につなげようとする筆者の論理展開の仕方に気づき、筆者の主張を的確に理解することができる。

第三次 「考えの形成、共有」

第5時●★【読むこと エ】

文章全体から筆者の主張を確認したり、主張に関わる他の資料と読み比べたりすることを通して、作られた『物語』を超えていくためにはどうするとよいか自分の考えをまとめた意見文を書くことができる。

第6時★【読むこと エ】

意見文を仲間と読み合い、互いの意見を聞き合うことを通して、自分と他者の意見の違いを捉え、再度自分の意見の妥当性を吟味して振り返り、考えの広がりや深まりを書き加えることができる。

学習の系統: 読むこと オ(小(高)中1、中2) エ(中3)

小学校(高) : 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

中1 : 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

中2 : 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

中3 : 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつこと。

4 本時のねらい

事例と主張とのつながりを読み取ることを通して、ゴリラの事例から人間社会の問題に発展させ、主張につなげようとする筆者の論理展開の仕方に気づき、筆者の主張を的確に理解することができる。

5 本時の展開 (4/6時)

過程	学習活動	教師の指導・援助
確かめる	<p>一 前時の学習を振り返り、本時に読む範囲の内容を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴリラは人間の誤解によって悲惨な運命をたどったことやドラミングをする本当の意味が分かった。 <p>二 課題をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「人間社会の事例」と「主張」はどこがどのように結び付いているだろうか。</p> </div> <p>三 本論②の内容を確かめ、主張とのつながりを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張をまとめた文章を板書に位置付けておき、本時に読む範囲とのつながりを考えていくことを見通しができるようにする。
読む	<p>⑧人間へ印象をもとに「物語」を作り、伝える性質</p> <div style="text-align: center;"> <p>言葉の発明による悪影響 → 誤解による「物語」→ 社会の常識</p> <p>↓</p> <p>⑨人間社会の悲劇 (うわさの拡散・紛争)</p> </div> <p>⑩筆者の考え…人間の見る目は誤解に満ちている。相手の立場に立って考える。常識を疑う。</p> <p>⑪筆者が出会った新しい世界 …「ゴリラは人間とは別の表現を用いて平和を保っている。」という新しい価値をもつ豊かな世界。</p> <p>「人間社会の事例」 ↔ 「筆者の主張」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>⑫常識を疑い、相手の立場に置き換えて考えることが重要である。作られた「物語」を超えて、その向こうにある真実を知ろうとすることが新しい世界と出会うための鍵である。</p> </div>	<p>学習状況の把握は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例と主張のつながりを見つけれない生徒には、主張と関連がある「物語」について書かれている部分に線を引くように助言する。 ・事例と主張のつながりを一カ所しか見つけられない生徒には、別の箇所を示し、つながりの理由を考えるよう助言する。 <p>「人間社会の事例」と主張のつながりを考えられている生徒には、「ゴリラの事例」は主張とどう関わっているか考えるように助言する。</p>
深める	<p>⑬ゴリラの事例がないと主張の伝わり方はどう変わるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゴリラの事例」は主張の根拠になっている。実際に人間はゴリラのドラミングを誤解し、それが広まったことで悲劇を生んだ。だからこの事例は「人間社会でも常識を疑い、相手の立場に置き換えて考える」という主張と結び付く根拠になっている。 <p>四 まとめを書く。</p>	<p>【研究内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間社会の事例」と「主張」とのつながりを視覚的に捉えやすくするために板書に横並びにして位置付ける。 ・深めの発問をし、本文が帰納的な論理の展開になっていることに気付かせる。 <p>【研究内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの生徒もまとめに書く内容を見通すことができるように、書く前にペアでどんな内容を書くか話させる。 ・まとめには、「課題について理解したこと」「仲間との交流を通しての広がりや深まり」の構成で記述させる。
まとめる	<p>筆者はゴリラの事例を根拠として、人間社会の問題を説明し、そこから相手の立場に立って考えたり常識を疑ったりすることが大切だという主張を述べていることが分かった。(課題について理解したこと)</p> <p>〇〇さんの意見を聞いて、「ゴリラの事例」と「人間社会の事例」と「主張」がどのようにつながっているかがよく分かった。(仲間との交流を通しての広がりや深まり)</p>	<p>評価規準【現行読むことI】</p> <p style="text-align: right;">(発言・ノート)</p> <p>ゴリラの事例から人間社会の問題に発展させ、主張につなげようとする筆者の論理展開の仕方を踏まえ、筆者の主張を適切に理解している。</p>